

兜山(かぶとやま)ー棚山(たなやま) 近藤雅幸

山梨市の西にある、兜山と棚山は、冬枯れの山歩きを堪能するのにちょうど手ごろな山である。冬木立の木々を通して白い雪を戴いた甲府盆地周縁の山を垣間見ることでもでき、アプローチから見る富士山も美しい。

あわせて眺望の良さで人気のある「ほったらかし温泉」を訪ねてみた。



登山口から望む兜山

春日居町駅から、西に盛り上がる兜山に向かって歩き始める。路傍には「山梨百名山 兜山・岩堂(いわどう)峠ハイキングコース」の道標がある。

果樹畑や民家の間をたどる。広域農道の下をくぐって平等川(びょうどう)を渡ると畑の中を登る簡易舗装の田舎道になる。走湯神社前の二股を左に行くと、斜面に広がる桃畑の背後に雪を戴いた富士山がせり上がってくる。

しばらく登ると左カーブの右に「兜山登山口(まで)60分」の道標がある。右に分かれる細い舗装道に行く。

尾根の中腹を北東に巻いて行くと、鹿よけの柵が現れるのでその扉を抜ける。さらに先へ向かうと左にゴルフ場が現れ、道が左に大きくカーブしながら尾根の先端を回り込む。西に方向を変えた舗装道は次第に西平等川に近づいていく。

一つ目の二股を右に入り、その先の分岐も「六郷平和観音」像がある右の道を行くと、橋を渡った先にあずまや、トイレと小さな駐車場が見えてくる。兜山登山口である。道標には「左・兜山山腹コース・岩堂峠、右・兜山岩場コース・西平等川」とある。

右の兜山岩場コースに入って西平等川の左岸を行くと、まもなく「新設ハイキング道・岩場近くに出ます」の看板が見える。そこから左に分かれて、ヒノキ林の中を登ると、道は兜山の東の山腹を巻くようになる。

間伐材の展望台を過ぎると垂直に切り立った岩の裾に出る。岩の裾を二つほど巻くと右から西平等川からの道が合流してくる。道は左へ向きを変え、鎖場のある土交じりの岩溝を登る。登りきって大きな石が累々とする道を過ぎ、緩やかな尾根を行くと兜山山頂は眼と鼻の先である。

小広い兜山の山頂には四等三角点、木の標柱とベンチがある。広葉樹の木立の中で眺望はないが、落ち着いた雰囲気には満ちている。

頂上の道標に従い「展望台」の方向に1分ほど行くと、富士山を背景とする大きな眺めが眼前に広がる。

兜山—棚山付近略図



いったん兜山の頂上に戻り、「岩堂峠・駐車場・山腹コース」の方向に向かう。すぐに「駐車場」への道を左に分け、次いで夕狩沢への道を右に分けると、尾根には大きな石が目立ってくる。990㍍圏のコブを過ぎ、岩交じりの急な下りや、大きなアカマツが点在する尾根を歩いて行くと、やがて鞍部に下りつく。

左に向って「岩堂峠」方面を示す道標が立ち、そちらへは整備された登山道が、右の夕狩沢方面へは微かな踏み跡が下っている。尾根の続きにも踏み跡があり、その先に赤い境界標が見えるので、そちらへ向かう。※1

境界標を目印に尾根をたどる。あまり人が入らないと見えて灌木の枝や倒木がうるさいが、散り積もった松葉で足元は柔らかい。尾根が右に左に曲がりながら高くなるにつれ、右の樹間通しに望む棚山が近くなって来る。踏み跡は不明瞭で、尾根も屈曲が多いが適当な間隔で木の幹に赤ペンキのマークがつけられている。さらに境界標も目印になる。

コブをいくつか越えて、最後に大きな石を登り、1150㍍圏のコブを過ぎると、すぐに太良（たら）ヶ峠から棚山に向かう登山道と合流する。アカマツの幹に取り付けられた「太良ヶ峠⇄棚山」の道標があり、木の間越しに雪雲を戴く金峰山や国師岳が望める。

棚山に向かって少し尾根を下ると、いよいよ最後の登りである。この登りは急だが、意外にあっけなく棚山の頂上に出てしまう。三等三角点がある山頂は、南西と東の方向が開け、南アルプスと大菩薩嶺の眺めが美しい。

下りは尾根伝いに南東の「フルーツ公園・ほったらかし温泉」方面へ向う。すぐに「フルーツ公園」への道を左に分けるが、そのまま尾根上の道を行く。そこからは「ほったらかし」や「重ね石」への道標が目印である。

尾根は次第に下りに転じ、右に夕狩沢へ下る薄い踏み跡を分ける。道は下り一方になり、次々と面白い形をした大石が現れる。やがて正面に大石が二つ重なった「重ね石」が見えてくる。

道はここで大きく左に折れて山腹を巻きながら谷へ下る。一部、歩きにくいところもあるが、右に左に方向を変えながら下ると、溪声が聞こえ、沢沿いの林道跡に飛び出す。

林道跡を右にたどって沢を渡り、対岸



重ね石



棚山山頂

の竹林の間を行くと、300 ㍍も行かないうちに左に「フルーツ公園」の方向を示す道標がある。そこで林道跡を外れて左に林間の山道に行く。林道跡の続きにも「ほったらかし」とあるが、そちらでは春日居町に下ってしまう。 ※2

小さな尾根を越えると、間もなくコンクリートのタンクの横で林道に出る。 ※3
近くには人家も見え、すでに里の一角である。林道を左に行くと、視界の良いススキ

やかやの中の道となって尾根を巻くようになる。白妙の富士山が視界に入り、思わず足が止まる。

レンガの門柱を抜け、尾根の先端を回り込むと、アカマツ林の中の道となる。小さな沢を渡ると、間もなく林道が二分する。これは左の道进行く。

アカマツ林を抜けると、「ほったらかし温泉」に着く。「ほったらかし温泉」には露天風呂と内湯、それに更衣室といった最低限の施設しかないが、それを補って余りある露天風呂からの眺望がある。

御坂山塊が見える「こっちの湯」と、大菩薩を眺めるのによい「あっちの湯」のどちらかを選ぶが、どちらから見ても雪の富士山には惚れ惚れとする。

ただし、受け付けが別々にあって行き来できないので、各々入浴料を払わなくてはならないのが玉に傷である。しかし、それも眺めがいいからこそその贅沢な悩みである。

ここから最寄りの山梨市駅に出るにはタクシーを呼ぶことになるが、天気が良ければ富士山を眺めながら歩いて下るのも良い。山梨市駅まではおよそ1時間強のウォーキングである。

(09年2月1日(日)歩く)

●コースタイム

春日居町駅—50分—兜山登山口 60分の道標—1時間—兜山登山口—1時間—兜山—35分—鞍部—1時間 10分—登山道合流—25分—棚山—30分—重ね石—25分—林道—45分—ほったらかし温泉—1時間 10分(またはタクシー10分)—山梨市駅

●費用

新宿—春日居町 JR2210円

山梨市—新宿 JR2210円

ほったらかし温泉—山梨市駅 タクシー約2000円

ほったらかし温泉 700円

●問い合わせ先

山梨市観光協会 0553-20-1400 ※4

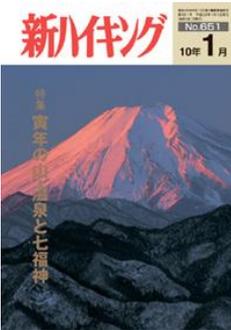
ほったらかし温泉 0553-23-1526

甲州タクシー山梨営業所 0553-22-1551

●地 図

塩山 甲府北部（2万5千）

甲府 （20万）



このページの情報は、新ハイキング社発行の「新ハイキング 2010年1月号」に掲載された記事を、新ハイキング社の許可を得て転載したものです。

掲載当時の文章をそのまま掲載していますので、コースの現況や交通機関等の情報が現在と相違していることがあります。（一部修正箇所は注釈を加筆しています）

実際にコースを歩いてみて、「がけ崩れで通れなくなっている」「コースが付け変わっている」「新しく標識ができています」などの情報がありましたら、山梨市観光協会（山梨市役所観光課内）まで情報をお寄せください。

※1 兜山～棚山間の登山道は、平成26年から笛吹市で開催されているトレイルラン大会に合わせて明瞭な登山道に整備されています。

※2 現在は看板を撤去

※3 このあたりからほったらかし温泉までの間は林地開発によりコースが変わっています。現地の案内板に従い、ほったらかし温泉方面を目指してください。

※4 現在は 山梨市観光協会（山梨市役所観光課内） 0553-22-1111